

データで見る潜水障害と潜水事故

レジャーダイバーの潜水障害の実態を紹介しておきましょう。

ここに示すデータは、すべて私と研究室の仲間たちとで調査した内容で、学術雑誌や学会で発表したものです。

潜水障害にかかるダイバーはどのくらいいるのか？

右図はダイバーが経験した潜水障害の種類です。ビーチダイビングをしている1683名のアンケート調査では、経験したことがある潜水障害のうち最も多いのが窒素酔い(12%)、第2位が耳の障害(約10%)でした。別な調査には、耳抜きトラブルはダイバーの20~40%が経験するといったものもあるので、軽い耳の障害も含めればもっと多いと思います。潜水障害を起こすダイバーは多いわけですが、対処法さえ知っていればほとんどが予防できるものです。

ダイバーの潜水障害経験

障 害	ダイバー数	全ダイバーに対する割合
窒素酔い	209	12.4%
耳の障害	162	9.6%
副鼻腔の障害	97	5.8%
歯の障害	70	4.2%
減圧症	34	2.0%
その他	6	0.4%
合計(延べ数)	578人	
障害にかかったことのあるダイバー数	418人	
障害にかかたダイバーの頻度	24.8	

※調査したダイバー数/1,683人

減圧症にかかる確率はどのくらいか？

右図に潜水経験と減圧症にかかる確率を示しました。減圧症にかかったことのあるダイバーは、レジャーダイバーでは100人に1人(9.0%)です。全体では50人に1人(2.2%)ということになります。減圧症にかかる確率は、レジャーダイバーでは、おおよそ14000ダイブに1回、プロダイバーでは17000ダイブに1回です。平均すると16000ダイブに1回です。しかし、これは、減圧症にかかってもダイビングを続けているダイバーの割合であり、下男津小児かかった後、ダイビングを辞めてしまったダイバーや、減圧症の診断をきちんと受けていないダイバーもいますから、かかる確率はもっと高いと考えられます。

潜水経験と減圧症の関係

項目	レジャーダイバー	インストラクターまたはガイド	合計
人数	989人	145人	1,134人
経験年数(平均) (最小~最大)	3.7年 0.1~34年	9.2年 1.3~32年	4.7年
年間タンク数(平均) (最小~最大)	42本 5~800本	222本 15~800本	65本
延べタンク数(平均) (最小~最大)	168本 5~3000本	1,836本 73~29,400本	390本
減圧症にかかったことのあるダイバー	12人	13人	25人
減圧症にかかった延べ回数	12回	16回	28回
減圧症にかかったダイバー割合	1.2%	9.0%	2.2%
減圧症にかかる確立 (1回/タンク本数)	1/13,846	1/16,639	1/15,795